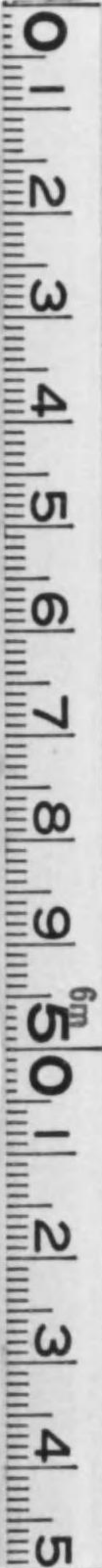


特 258

488

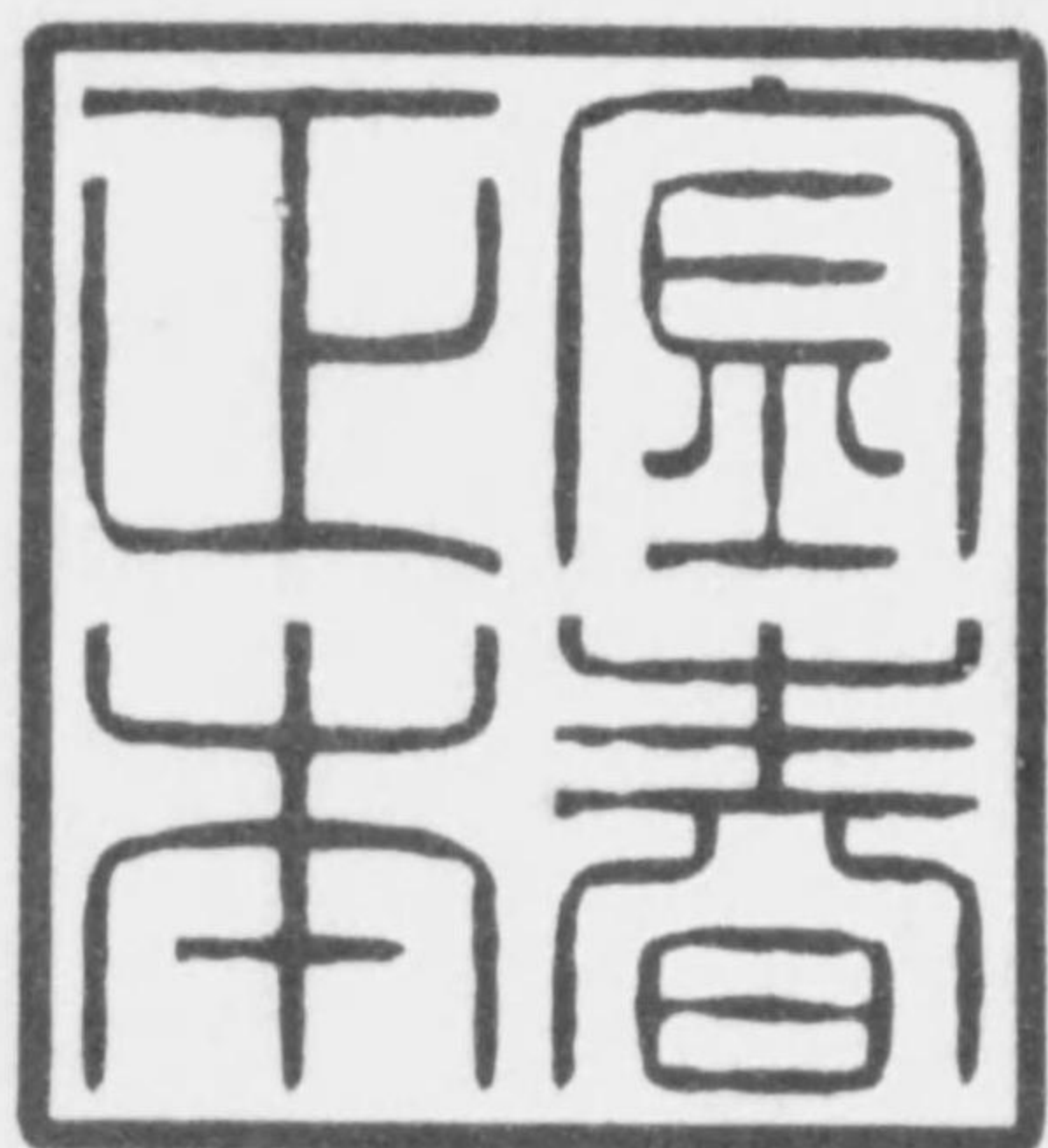
枕邊書
藏稿
大江山



始



特 258
488





枕慈童(まくらじどう)の梗概

唐土郡縣山より不思議なる泉の出づる由を聞き勅命を奉じて到り見るに、
小さき庵在りて一人の童子來り申すやう、昔穆王より御枕に二句の偈を
書きて賜はりしを、菊の葉に書きしに、菊のした、り藥の酒となりぬ
を、飲みて七百歳を送りたりと語り勅使と其泉をくみかわし、樂を奏し
帝王の壽ぎを申して仙家に入りけり。



謠 様 概 説	脇 ツレ		ワ キ 勅 使	シ テ 慈 童 (右袖抜ケ)	役 別	装 束 附
	從者二人					
サラリト淀ミナク美シク謠フベシ	ワキ同装、但シ赤地狩衣。		厚板、白大口、袷狩衣、腰帶、大臣烏帽子、調度掛、扇子。	面、童子、黒頭、白鉢巻、厚板、法被、半切、腰帶、團扇。		
目 能	四 略	曲 柄	月	九	季	
(後狀免門入)	級 二	警 言 古 順	山	縣	鄒	那 支 所

枕草子

ワキ三六次郎サラリ

合上

山より奥まで。よりの家の
 まごころをいかにかきとらふ
 魏の文帝は人なほなつた。あ
 秋君は官方より。都縣山の麓より薬
 の水通をいさへし。そのまごころを
 ちからいかにかきとらふ。そのまごころ

此の夜通にやん家よ。我々の夜も
 き。家への響きの。山路の美き。女
 捕へば。籠りたる。鈴なる。響かすべ
 せしむる。かへ。の。響かす。た。て。子。路。の
 子。路。の。響かす。人。こ。の。家。へ。

鐵 輪 (かなわ) の 梗概

都下京邊に住む男、あだし女を家に入れ、本の妻を離別したれば本妻怨
 みて貴布禰の宮に丑の時参りをなす、男其後夢見悪しく、安部晴明に占
 はせ、祈禱を頼めば鬼女の姿現はれ、男をとらえ行かんとするを三十番
 神怒り給ひて鬼女は通力失ひ、失せけり。

和拍子ノシテ深シツカリ
 日毛敷^ノそ^レこ^ノ密衣。日毛敷^ノそ^レこ^ノ意
 長^キ布^ネ祓^シの^ミ言^ハの^ミ意^ハして^ハも^ト也^ノ
 心^ハあ^ハれ^ル弱^ク整^ツて^ハた^ラ二^ノ道^ニも^シ
 心^ハを^ト教^メた^ラま^シい^ハん^ト思^フひ^ハの^ミ後^ハ
 末^ニさ^シで^ハ終^ツつ^テま^シめ^テこ^ノ悔^ミた^ラむ^トだ^ラ
 和^ハか^シの^ミ心^ハあ^ハま^シつ^テ思^フひ^ハの^ミ終^ル

鐵輪

諸様概説	間狂言 神社、人	ワキヅレ 男	ワキ 安部晴明	後シテ鬼 女	シテ女	役 別
						装束附
嫉妬、執心ニ凝ツタ女性ナレバ、愁凄ノ氣ヲ含ミ、強ク謔ヲナリ、		無地鬘斗目、素袍上下、小刀、扇子、	黑風折、着附、白大口、縹紵衣、腰帶、扇、幣、	面、橋姫(藍若ニモ)、髪、鬘帶、平元結、鐵輪、箔、腰卷、打杖、扇、	面、泥眼、鬘、鬘帶、箔、腰卷、縫箔、唐織、腰帶、笠、	
能	尾	曲柄		月	九	季
目番五四						
(後狀免門入)級二		警吉順		都京後、舟貴城山前		所

草の人の形を人にしてついでに草の
字を内にはかき入る。小川の石の
まじりく供物を調へて行儀を
祈まらう。謹と申お。支那人の
ひまのうらやうまう。伊勢の
たき。夫石をよめて。たきまへ
一うら男女支那のうらやう

陰陽の道あぐく傳ふる。そ
魁魁鬼神坊とあり。此業の
く。大の神祇。諸佛菩薩。
明王部。天童部。九曜。二十
考。なり。新れ。西降
この神稲妻。かき入る。か
め。鳴動。かき入る。か

大江山(おほえやま)の梗概

丹波の國、大江山に酒吞童子と云ふ鬼の住みけるを征伐せよとの勅を奉じて源の頼光四天王を引具して山伏の姿となり道にふみ迷ひたるとよそほい酒吞童子に近づき酒宴をなし機を見て飛びかゝり大格闘の上、鬼の首打ち取り一同喜びて歸りけり。

謠 様 概 説	ワキツレ 一人武者	ワキ立衆 数 頼光の從者 人	後ワキ同 人	ワ キ 源 頼 光	後シテ 鬼	シ テ 酒 吞 童子	役 別	裝 束 附
	強ク勇マシクサラリト謠フ。	ワキ同裝 中入後、白鉢卷、厚板、大口、側次、腰帶、太刀、	白鉢卷、厚板、白大口、法被、腰帶、太刀、	兜巾、篠懸、厚板、白大口、水衣、腰帶、小刀、扇、數珠	面、シカミ、赤頭、厚板、法被、半切、腰帶、打杖、	面、童子、黒頭、箔、色大口、腰帶、唐織、白布卷カセ杖		
	(物鼓太) 能	尾	曲柄	月	九	季		
	(一、其) 級 一		誓吉唄	山江大國波丹			所	

大工子

ワキ立亮 サラリ

一セイコス
洛上
拍子不

秋風の音なまむして西川を流るるも行
あり大工のあまなむあまなむあまなむ丹波國
大工の思の事かみ詞
あるやの思の事かみ詞
頼光保昌の作付
中様。たのびおおむらう有るも人

十二

備はらむ女をシヤクかゝる。はるかにシヤクなやま
うそはむらたむ。町にいひ細シヤクるなやま。

山伏の姿はあまき。戀まのくち頭巾。

やぶり。鏡をぬきぬきシヤク数るや。兵具は

衆はあやうさむら。なるシヤク人若さむ。

あの子は。林にたむふ衆をシヤク余留。園菓

香花露公時。はるかにシヤク藤の籠前が

彼見ゆとてシヤク余入。まごの後シヤクのちり。

方卯はシヤク月ワキの都々田シヤクの立シヤク月シヤクの都

を思ひし。行かむシヤク西シヤク河シヤク原。彼風

立くシヤク木シヤク綿シヤクはシヤク後シヤクもシヤク数シヤクもシヤク。

鬼神あつとシヤク大シヤク老シヤクのシヤク城シヤクをシヤクぬシヤク。

あゝシヤク分シヤクちシヤクにシヤクあシヤクむシヤク。

ふれぬあシヤクし。大シヤクのシヤクあシヤク。

五

上

シカヘニトハ侍傳ノ。一夜のお宿の作
カキ。此に桓武天皇にお侍せし。
出家ノミヤヒカニ。皇ノ御ニ契約
ニカヘテ。中心の腰に廊まで入
カサカヘ。女御ノ宮侍傳ノ。ソレヨリ
ソレガノ侍傳ノ。カサカヘ。此に侍傳ノ
此に侍傳ノ。上は。ソレニ侍傳ノ。ソレヨリ
侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。
今宵のお宿何より。此は。侍傳ノ。
カサカヘ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。
カサカヘ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。
侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。
侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。
侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。
侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。侍傳ノ。

大2

三

ヨモスガラ
あまのからん心かたけ。あまのこ。

あまのこころのさかきあまのこころにたかき。

あまのこころの比叡のあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

あまのこころのあまのこころのあまのこころのあまのこころ。

へた風をたかひ。雲一とみたりて、雲への、
為ニクさひは、雲の。ひたりて、
夷中、清光の古、
も、
天龍、
行脚、
白山、

道は、
輪廻、
心を、
己、
心安く、
嬉

一樹の陰。心はなぐれぬ。

 輪回の本より。意遊の行。人たまたま。

 こは次女。我のまゝ。しつとせ。

 舞の心。たまたま。

 花の心。たまたま。

 眼の心。たまたま。

 心。客僧。我の童。

花の心。たまたま。

 心。客僧。我の童。

 花の心。たまたま。

 心。客僧。我の童。

 花の心。たまたま。

 心。客僧。我の童。

 花の心。たまたま。

 心。客僧。我の童。

 花の心。たまたま。

 心。客僧。我の童。

神の御子に成りて人となすに
 此の御子の御名はメシヤ
 といふべし。この御子の御名は
 神の子となすに成りて人となす
 の御子の御名はメシヤといふべし。

神の御子の御名はメシヤといふべし。

Handwritten musical notation on a single staff, featuring a series of rhythmic notes and rests. The notation includes various note values and rests, with some notes marked with 'x' or '+' above them. The piece concludes with a double bar line and a repeat sign.

Handwritten musical notation on a single staff, continuing the piece. It features a series of rhythmic notes and rests, with some notes marked with 'x' or '+' above them. The notation is dense and includes various note values and rests. The piece concludes with a double bar line and a repeat sign.

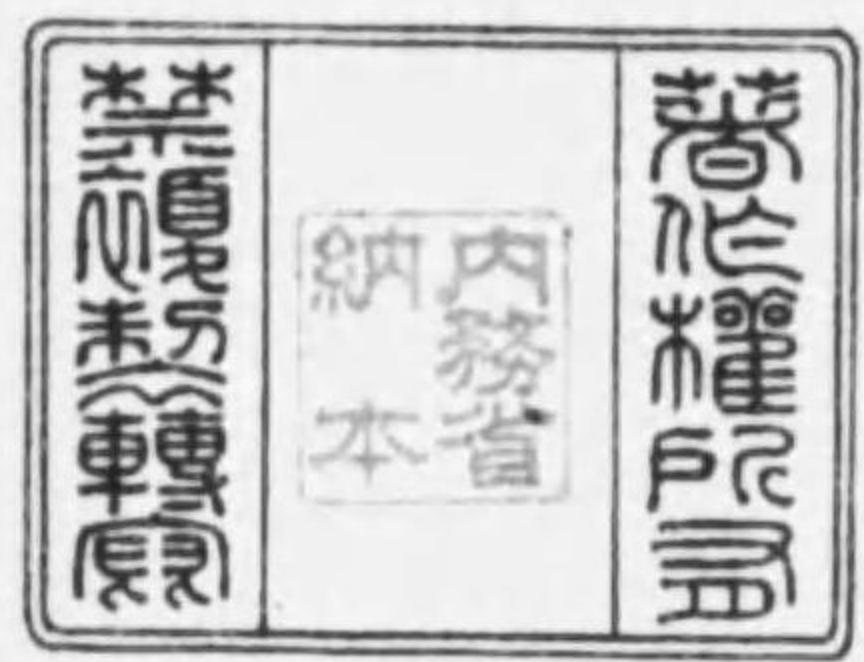
399
16

發行所

金春光
謠本版元

東京市京橋區銀座西六丁目三番地

わんや書店



昭和拾四年九月十日印刷
昭和拾四年九月十五日發行

〔定價貳圓〕

著作者 金春光太郎

發行兼印刷者 江島伊兵衛

社。海。の。事。は。...

終

